

暮らしの中の SIAA

安心・安全を目に見えるカタチに



www.kohkin.net

特集

SIAA会員が
一堂に集う場

バイオフィームと新SIAAマーク





Report

9月9日「SIAA会員が一堂に集う場」開催

「SIAA抗菌の日」制定(日本記念日協会が認定)にともない開催された記念イベント。

当日は委員会活動報告、記者発表会、懇親会など多彩なプログラムが用意され、会場を埋めた多くの会員企業様にとって貴重な情報共有・相互交流の場となりました。

「SIAA抗菌の日」となった9月9日(月)、抗菌製品技術協議会(SIAA)主催による記念イベント「SIAA会員が一堂に集う場」が開催されました。現在SIAAの会員数は1000社を超え、多くの有志企業様によって委員会活動などが展開されていますが、業種や活動分野を超えて多数会員が集まり相互交流できる今回のような大規模イベントはSIAA発足以来初めてのことで、当日、会場となったベルサール新宿グランド(東京・新宿区)には約120社・400人もの会員様とご来賓が来場、さらにメディアによる取材も行われるなど盛況となりました。

第1部は委員会活動報告会。射本康夫副会長の開会挨拶に続いて11委員会の代表者による直近の活動報告が行われました。本年7月にSIAAマークの運用がスタートしたバイオフィルム委員会、新たに発足した印刷準備委員会、国際標準化委員会等の活動紹介もあり、SIAAの新たな取組みについて周知いただく貴重な機会となりました。

第2部の「記者発表会」では、①「SIAA抗菌の日」制定式(日本記念日協会様による登録証授与式)、②消費者意識調査の結果発表、③会員企業による抗菌・抗ウイルスへの取り組みと事業紹介、④SIAAの活動をご支援いただいている消費者団体代表者によるご祝辞と、多彩なプログラムが用意されました。

また夕刻から行われた懇親会は立食パーティーとなり、くつろいだ雰囲気の中、会員様同士活発に意見交換する様子が見られました。懇親会場には6つの委員会がブースを出展。展示パネルを前に積極的に質疑応答されるシーンも見られ、SIAAの活動に対する関心の高さを改めて感じることができました。

ご参加の皆様には改めて御礼申し上げます。

委員会活動報告

【9月9日 SIAA抗菌の日】
SIAA会員が一堂に集う場

抗菌製品技術協議会



第1部の司会進行をされる
平沼専務理事

11委員会の代表が 最新活動を報告

委員会活動報告(第1部)

「SIAA会員が一堂に集う場」第1部では全11委員会による活動報告(中間報告)が行われました。コロナ禍を経て衛生対策製品の市場が大きく変動するなか、各委員会ではそれぞれ専門分野に立脚しながらダイナミックに施策を提案・実行しています。当報告会ではこれら最新の活動・今後の取り組みが簡潔に紹介され、来場された皆様も熱心に耳を傾けていました。登壇者は次の通りです。①防カビ委員会 中村勤委員長(積水化学工業) ②安全性委員会 勝田真一委員長(日本食品分析センター) ③バイオフィルム委員会 中津川直樹委員長(三菱電機) ④技術・制度運営委員会 太田知克委員長(日本食品分析センター) ⑤SIAA広報委員会 石田昌也委員長(富士ケミカル) ⑥印刷準備委員会 藤井公一委員長(東洋インキ) ⑦抗ウイルス委員会 中嶋絵里委員長(日本繊維製品品質技術センター) ⑧国際展開委員会 鈴木真也委員長(ポーケン) ⑨国際標準化委員会 射本康夫委員長(日本繊維製品品質技術センター) ⑩抗アレレル委員会 細渕委員(ポーケン) ⑪中期計画戦略委員会 首藤裕樹副委員長



中村委員長



勝田委員長



中津川委員長



太田委員長



石田委員長



藤井委員長



中嶋委員長



鈴木委員長



射本委員長



細渕委員



首藤副委員長

庄田正博SIAA会長ご挨拶(要旨抜粋)

SIAAの会員数はコロナ禍以降急激に増加し、今年8月1日時点で1155社もの企業・団体に加入いただいております。SIAAの目標とするところは抗菌・抗ウイルス・防カビ・抗バイオフィルム等SIAAマークが表示された製品が、消費者の皆様にとってご購入やご使用の際の安心・安全の証になることです。またその目標達成のために私どもでは①SIAAマークの信頼性向上 ②SIAAマークの認知度と評価の向上 ③グローバル展開という基本方針を掲げています。本日はこのSIAAマークを支える会員企業の皆様に感謝の意を込めて「SIAA会員が一堂に集う場」を開催する運びとなりました。このイベントが会員企業の皆様とともにSIAAの未来を創造するための貴重な機会となることを祈念いたします。本日はありがとうございました。





「SIAA会員が一堂に集う場」

第2部(記者発表会)～懇親会の様子を紹介。

SIAAの最新情報を発信、同時に会員による貴重な情報交換の場となりました。



懇親会の様子

今や1000社以上の会員を擁するSIAAにとって当懇親会は初めての
大規模な相互交流イベントとなりました。さまざまな業種の企業様が
顔を合わせ懇談できる有意義な機会となりました。



中締め挨拶をされる
井須紀文副会長

来賓ご挨拶(第2部)

SIAAの貴重なアドバイザーでありパートナーでもある
消費者団体より代表者をお招きしご挨拶をいただきました。

向上専門委員会等を通じてSIAAの活動をご支援いただいている消費者団体の代表者を来賓
としてお迎えし、それぞれご挨拶をいただきました。SIAAマークは消費者の皆様にとって安心・
安全の証になることを目指しており、消費者の立場から常に忌憚のないご意見・ご要望をお寄
せいただく諸団体様はSIAAにとって貴重なパートナーでもあります。ご挨拶頂いたのは、主婦
連合会副会長 田辺恵子様、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談
員協会(NACS)代表理事副会長 丹羽典明様、一般財団法人消費科学センター理事 井岡
智子様。また東京都地域婦人団体連盟会長 山下陽枝様からも懇親会の席上にてご挨拶を
いただきました。



NACS 丹羽様



消費科学センター 井岡様



東京地婦連 山下様



主婦連 田辺様



日本記念日協会 加瀬様

「SIAA抗菌の日」制定式(第2部)

一般社団法人日本記念日協会 加瀬清志様より
記念日登録証が授与されました。

SIAAでは「世界基準に準拠したSIAAマークの認知拡大」と「抗菌/抗ウイルスへの理解促進・啓発」を目的として、毎年9月9日を「SIAA抗菌の日」と制定。一般社団法人日本記念日協会により正式に認定されました。9月9日が選ばれたのは抗菌活性値2.0以上=抗菌効果を示す「菌の減少率99%」に因んだもの。この日は日本記念日協会 代表理事の加瀬清志様より記念日登録証が授与され、併せてお祝いのお言葉をいただきました。



発表を行う志賀副会長

アンケート調査結果発表 消費者意識の変化等を検証・報告(第2部)

中期計画戦略委員会が行った「抗菌・抗ウイルスに関する意識調査」の結果について志賀彰SIAA副会長より発表がありました。これはコロナ禍およびその後の消費者の衛生性や抗菌に対する関心、さらにはSIAAマークの認知度や信頼性について調査したもので、今後のSIAAの訴求活動の指針となる貴重な調査データとなっています。調査結果についてはP10に紹介しています。

6委員会のブース展示が盛況(懇親会)

情報収集求めるメディア・参加企業からの質問も相次ぎました。

懇親会会場にはバイオフィilm委員会、抗アレル委員会、抗ウイルス委員会、防カビ委員会、技術・制度運営委員会、SIAA広報委員会による展示ブースを設置。日頃の取り組みをはじめ、最新情報を紹介。会員各社の皆様の関心も強く各委員会担当者に積極的にご質問をいただいた他、会員様同士の交流も盛んに行われました。



TV取材を受ける庄田会長

多数メディアで当日の様子が紹介されました。

当日はテレビ・新聞各社等のメディアが招待され、SIAAおよび会員企業の取り組みに対する質疑応答や庄田会長へのインタビュー、さらに各展示ブースの取材が積極的に行われました。PR成果は大きく、テレビの地域情報番組(千葉テレビ「ちば朝ライブ・モーニングこんぱす」)で会の様子が紹介された他、新聞(3件)・ネットニュースサイト(55件)で、「SIAA抗菌の日・制定」や消費者意識調査の内容が掲載されました。

衛生ヒーローをプリントした 抗菌弁当箱などを参加者に配布

当日来場された皆様には衛生ヒーローがプリントされたオリジナル抗菌弁当箱やチョコレート、ボールペン等をお土産として配布。お持ち帰り用の手提げ袋には、街ゆく人々の目に留まるよう「9月9日 SIAA抗菌の日」と記され宣伝効果も発揮していました。



会員企業の取り組み紹介 LIXILと抗菌の歩み

株式会社LIXIL
常務役員 トイレ空間事業部 事業部長
水谷優孝様



佐野さんが便器を抱えて
目なイメージが強かった
というものの、当時は真面
目なイメージが強かった
佐野さんが便器を抱えて

「セラミック」と「清潔で
キラッと輝く」を掛けた
造語です。広告・宣伝な
ども積極的にを行い、俳優
の佐野史郎さんを起用し
たテレビCMやポスター
等も制作されました。

キャッチコピーは「水まわ
り まるごと抗菌計画」
というものの、当時は真面
目なイメージが強かった
佐野さんが便器を抱えて



この時です。
「抗菌効果99%」という基
準が明確に定められたのも
この時です。

1998年になると抗菌製
品技術協議会「SIAA」が
設立されます。弊社はこの
SIAA設立以前から、抗
菌関連企業、試験機関、関
連団体とともに抗菌効果の
基準作りに積極的に取り組
み、同協議会の幹事企業と
して抗菌剤の安全性や抗菌
効果を認証するSIAAマ
ークの制定に携わってきま
した。「抗菌活性値2.0以上
」抗菌効果99%という基
準が明確に定められたのも
この時です。

世界で初めて抗菌陶磁器を開発

皆さま本日は「SIAA会員が一堂に集う場」にご
参加いただきありがとうございます。会の企画・運営
を担当いたしました中期計画戦略委員会・委員長と
してたいへん感慨深く、厚く御礼申し上げます。ここ
では会員企業を代表して当社LIXILの活動につ
いて簡単に紹介させていただこうと思います。

SIAA設立に携わる

1996年になるとO-157による集団食中毒事件
をきっかけに全国で「抗菌ブーム」が湧き上がって
きます。この当時は弊社の抗菌便器・便座の売上も
伸びている時期でしたが、このブームでさらに業績向
上に拍車がかかっていきました。これはコロナ禍を背
景に抗菌・抗ウイルス加工製品に注目が集まった昨今
の事情と相通じるものと考えられます。

LIXIL (旧:INAX) と抗菌の歩み

1993	世界初、陶磁器への抗菌加工技術を開発 抗菌タイル、抗菌衛生陶器を商品化
1994	KILAMIC(キラミック) 防汚・抗菌加工商品の発売
1996	O-157食中毒事件をきっかけとした抗菌ブーム
1999	SIAA認証の適合 INAXは抗菌製品技術協議会設立(1998)や 抗菌効果の基準づくりに取り組む
2001	JIS抗菌規格の適合 ハイパーキラミック 防汚・抗菌に陶器表面の超平滑化技術をプラス
2007	ISO抗菌規格に準拠
2016	アクアセラミック 抗菌加工技術も併用した新素材を商品化

抗菌のフロントランナーとして

現在、SIAAマークの認知度については、発展途上
にありますが、トイレの便器等でSIAAマークを見
たことのある人は少なくないと思います。LIXIL
では長年にわたり便器等の水まわり製品にSIAA
マークを付けています。菌との接触が特に危惧される
環境の中で、SIAAマークによって「抗菌」の安心・
安全、信頼性を訴えていく。そういう活動を弊社は
SIAAとともに取り組んできました。これからも抗
菌のフロントランナーとして、抗菌業界に貢献してい
きたいと思っています。



会員企業の取り組み紹介

抗菌寿司カバーが可能にした「食のワクワク感」

くら寿司株式会社
執行役員 管理本部長
瀬口賢治様

※講演冒頭、大型モニターに映し出されたのはくら寿司 抗菌寿司カバーの紹介動画。

女の子「ねえねえくら寿司ではなぜカバーがついてるの」

くら寿司「それはね、空気中の目に見えない菌や埃からお寿司を守るために抗菌加工でしっかりブロックしているからだよ」

女の子「抗菌加工？」

くら寿司「目に見えないところを大切にしているんだよ」

女の子「だから美味しいんだ」

NA「抗菌寿司カバーを導入して10年以上、美味しさと笑顔のために」

10年以上前から抗菌寿司カバーを導入

くら寿司管理本部の瀬口です。ただいまご覧いただきましたのは、弊社ホームページや店舗のタッチパネルで配信しております抗菌寿司カバーの紹介動画でございます。

日本初となる寿司カバー「鮮度くん」は2011年11月に誕生。同年中にくら寿司全店で導入されました。カバーに触れることなくお皿を出し入れできる非接触構造が特徴（特許取得）となっており、また空気中のウイルスや飛沫、埃からお寿司を守ることで衛生管理を徹底でき、同時に寿司ネタの鮮度を保つ利点などが評価され大いに注目を集めることになりました。さらに2020年には寿司カバーのさらなる安全性向上のためカバー（キャップ）に抗菌加工を施した抗菌寿司カバーを開発、その後SIAA登録をさせ



くら寿司紹介動画より



ていただきました。

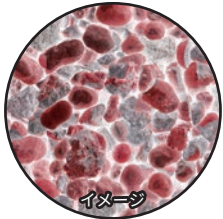
SIAA登録をした2020年にはコロナの流行があり、これによって回転寿司業界もたいへんな影響を受けることになりました。ウイルス感染への懸念から回転レーンを通じてお寿司を提供するチェーン店は次々に姿を消し、アフターコロナと呼ばれる現在に至ってもこうした状況は変わっていません。しかしそうした中であっても、くら寿司では以前と変わらず回転レーンを通じてお寿司を提供しています。これを可能にしているのは、一言で言えば、SIAAの認証を受けた抗菌寿司カバー「鮮度くん」があるからだと私たちは

流れるお寿司へのこだわり

弊社では回転レーンを通じて商品を提供するというサービス形態をとっても重要だと考えています。レーンに乗ってお寿司が流れることによって、お客様はワクワク感や華やかな楽しさを感じます。この回転寿司本来の楽しさこそ、弊社が目指す「食のエンターテインメント」の根幹となるものです。また、コロナ禍以降、他の各チェーンが「注文レーン（注文を受けた商品をレーンに流すサービス形態）」に特化していく中、弊社のみが回転レーンを通じてお寿司の提供をしているという点で、これは大きなストロングポイントになっています。

くら寿司では、今後もこの抗菌寿司カバー「鮮度くん」を通じて、食の安心・安全、そして楽しさというものを追究してまいります。皆さんもぜひ、くら寿司にお越しいただけたらと思います。本日は誠にありがとうございます。





イメージ

いったん発生・増殖すると
落ちにくいバイオフィーム



汚れ、悪臭、水詰まりの
原因となるバイオフィーム。
安心・快適な暮らしの環境づくりに
取り組むSIAAの新たな課題です。

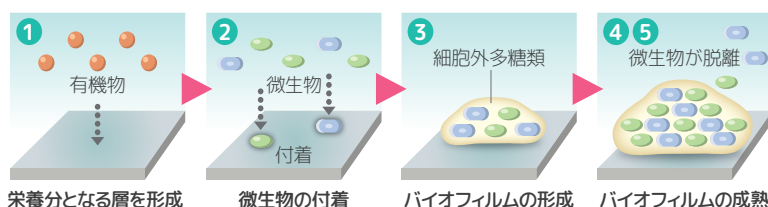
対策は急務

バイオフィームと 新SIAAマークの認証制度について



バイオフィームの生成過程

①固体の表面に有機物が付着して栄養分を持った層が形成されます。②ここに微生物が付着していきます。③微生物は増殖する過程でさまざまな代謝物を分泌してバイオフィームを形成します。④バイオフィームが成熟し、より強固になって固体表面にこびりつきます。⑤バイオフィームから脱離した微生物は空气中を浮遊し、別な場所で付着・増殖を繰り返します。

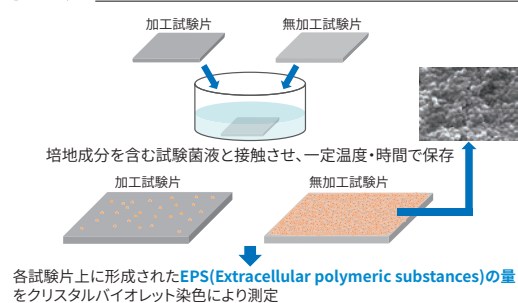


キッチンのシンクや浴室、トイレ等の水回りに発生するヌメリ。その正体は微生物とそれらの代謝物(多糖類、タンパク質、脂質、核酸等)からなる集合体で「バイオフィーム」と呼ばれます。不快だけでなく、悪臭の原因になり、またさまざまな微生物(菌)が集合していることから健康に悪影響を及ぼす懸念もあります。また放置すれば成熟・増殖して排水パイプやエアコン内部の水詰まりの原因にもなります。バイオフィームが付着しにくい抗バイオフィーム加工製品の開発と普及が待たれています。

バイオフィームとは何か

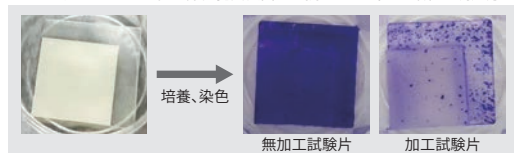
抗バイオフィーム加工製品の効果と安全性を目に見えるカタチに

SIAA 抗バイオフィーム性能評価試験方法のイメージ



活性値を算出し、**無加工と加工品の比較を行う**

ISO 4768:2023
Measurement method of anti-biofilm activity on plastic and non-porous surfaces
プラスチックおよびその他の非多孔質表面上の抗バイオフィーム活性の測定方法



付着抑制
60%
以上

ISO 4768 性能評価試験と 抗バイオフィーム認証基準

SIAAでは抗バイオフィーム加工製品の効果(付着抑制)を評価する試験法の開発と認証制度構築に取り組んできました。試験法のベースとなるのは国際規格であるISO 4768(SIAAが提案し2023年に発効)。左図のように、試験菌液と接触させた加工試験片と無加工試験片の表面からバイオフィームを回収しその付着量を比較するもので、SIAAでは認証基準を活性値60%以上と定めています。つまり無加工品に比べ、付着を60%以上抑制している加工品に対してSIAAマーク表示を認めることになります。

※耐久性試験、安全性基準についての規定は他のSIAAマークと同様。

今後拡大が期待される 抗バイオフィーム市場

今後期待される抗バイオフィーム加工製品の領域は、家庭のキッチン(シンク等)、トイレ、浴室等の水回り環境、エアコン、洗濯機、冷蔵庫等の家電品、さらには工場等の排水ダクトといった産業分野にいたるまで広範に及びます。またバイオフィームによる医療器具の汚染が引き起こす感染症リスクや金属腐食などは大きな経済的損失につながります。抗バイオフィーム加工製品の市場規模は今後ますます拡大してゆくことが見込まれますが、一方で現状における消費者や消費財メーカーへの啓蒙・認知拡大は十分に進んでいるとは言えません。抗バイオフィームSIAAマークの認知度・信頼性向上も今後、課題となっていきます。



バイオフィーム委員会の 取組みとご協力お願い

現在、バイオフィーム委員会では抗バイオフィーム加工製品におけるSIAAマーク普及に向け、34の機関と企業、59名の委員が「検討試験分科会」と「認証制度検討分科会」に分かれて活動を行っています。また現時点での抗バイオフィームSIAAマークは「バイオフィーム形成/付着抑制」を対象にした運用となっていますが、今後は「形成/付着したバイオフィームの除去しやすさ」へと展開すべく研究と検討を進めているところです。会員の皆様にはサンプル・最新情報のご提供など、ご協力をお願いいたします。



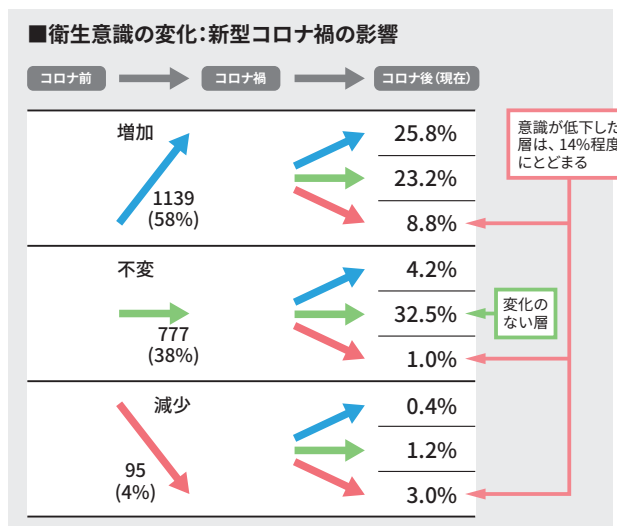
抗バイオフィームSIAAマークについて

SIAAが制定した抗バイオフィーム加工製品に対する認証マークです。表示が認められるのは、抗バイオフィーム性能(ISO 4768に基づく試験法にて60%以上のバイオフィーム付着抑制が認められたもの)、安全性、適正な表示という基準を満たした製品のみ。マーク下に「付着抑制」の記載が入ります。また注意事項として「バイオフィームの付着を完全に抑制するものではありません」と記載するよう求められます。

調査 2

コロナ禍前後の 衛生意識の変化

コロナ禍前後の衛生意識の変化(コロナ禍で高まった衛生意識がその後低下しているのではないか)を知ることは今回の調査の重要な目的のひとつでした。数字を見ると、コロナ禍で衛生意識が増加した人は58%と高水準で、しかもコロナ後も約50%の人々が高い衛生意識を維持していることがわかります。コロナ禍の有無を問わず衛生意識に変化のない人は約32%、コロナ後に衛生意識が低下した人はわずか14%に留まりました。コロナ禍をきっかけに人々の高い衛生意識は定着しつつあると言えます。



「生活者の衛生意識とSIAAマーク」

中期計画戦略委員会が発表

20～69歳
2065人に
アンケート調査



SIAAでは生活者における衛生性および抗菌・抗ウイルスに関する意識調査を実施。コロナ禍以降の抗菌・抗ウイルスに対する関心度の変化、あるいは抗菌・抗ウイルスへのイメージ、SIAAマークの認知度といった、今後のSIAAの活動に資する貴重なデータを収集することができました。調査結果は「SIAA会員が一堂に集う場」において志賀彰副会長より報告されました。

【調査概要】

調査期間：2024年6月19日～6月20日

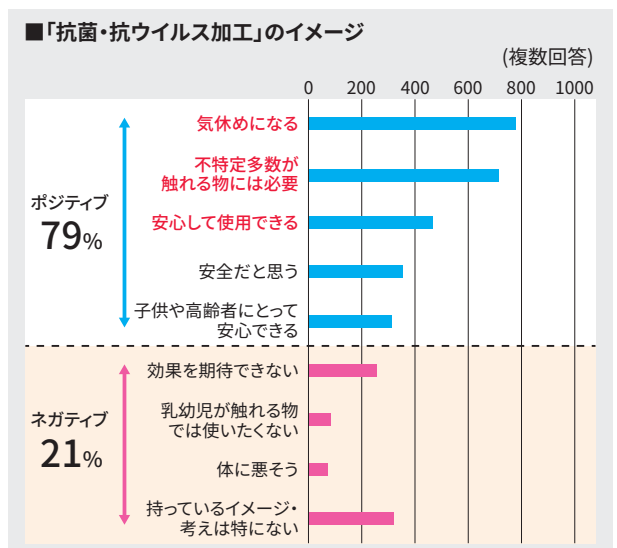
調査方法：インターネットリサーチ

対象者：全国20～69歳の男女2065人(有効回答数)

調査 3

「抗菌・抗ウイルス加工」の イメージ

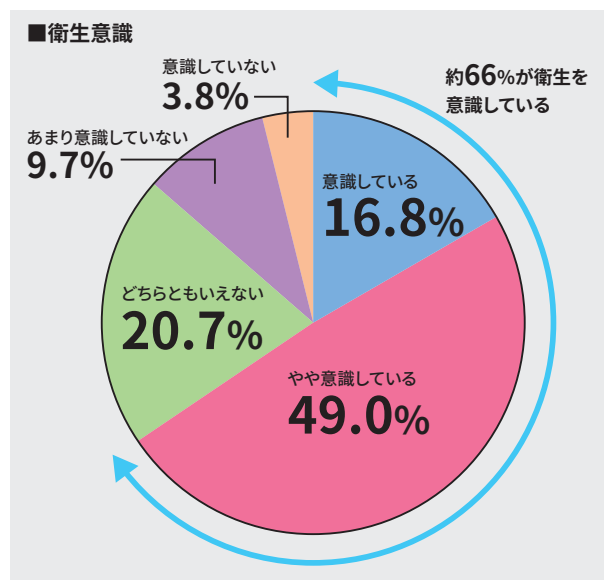
こちらは「抗菌・抗ウイルス加工」のイメージについての調査結果です。数字としては79%がポジティブなイメージ評価をしています。ただし「不特定多数(の人々)が触れる物には必要」「安心して使用できる」との積極的な評価がある一方で、「気休めにはなる」という消極的な評価意見が最多数に上りました。またネガティブなイメージ評価の中には「効果を期待できない」「特にイメージがない」という声も見られます。抗菌・抗ウイルス効果は目で見る事ができないことからこうした回答が寄せられるものと思われます。



調査 1

普段から衛生を 意識しているか

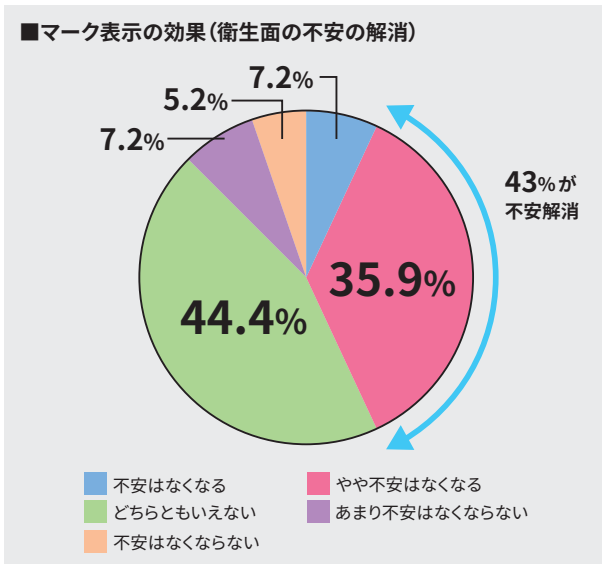
まず、衛生に対する意識についての調査ですが、「普段から衛生について意識しているか」という質問に対して、「意識している」と回答した人が約17%、「やや意識している」が49%。これらを合わせると全体の約66%と、多くの人が普段から衛生を意識していることがわかります。一方、「衛生を意識していない」人は14%弱と少数。また「意識している層」の内訳としては「女性層(72.4%)」「60代以上の高齢層(71.9%)」の比率が高くなっています。



調査 6

SIAAマーク表示 による効果

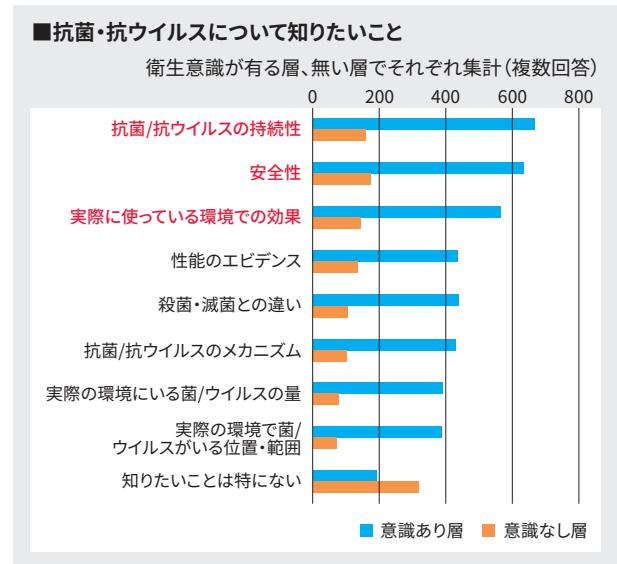
こちらはSIAAマーク表示の効果について調べたものです。「SIAAマークが表示されていることで衛生面の不安が解消されますか」という質問に対して、「不安はなくなる(7.2%)」あるいは「やや不安はなくなる(35.9%)」と回答された人が43%にのぼります。「どちらともいえない(44.4%)」との回答も一定数あります。また、グラフには示されていませんが、衛生意識の高い人ほど不安が解消すると回答する傾向が見られました。



調査 4

抗菌・抗ウイルスについて 知りたいこと

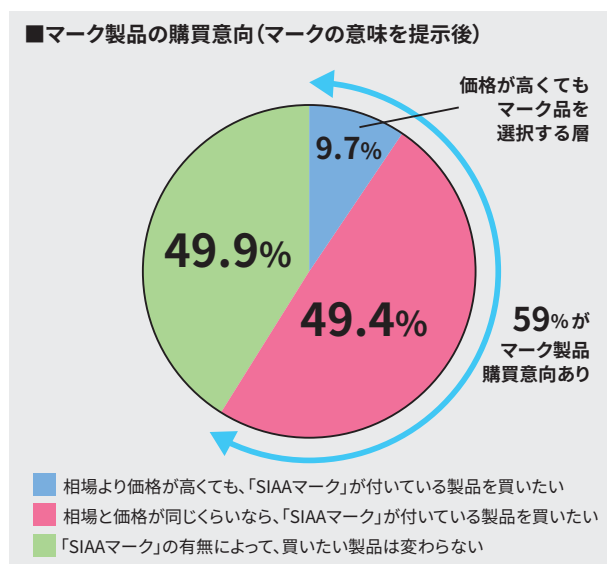
「抗菌・抗ウイルスについて、どんなことを知りたいか」というアンケート(複数回答)では、「抗菌・抗ウイルスの持続性」、「安全性」、「実際に使っている環境での効果」という回答が上位を占めました。SIAAマークを取得した抗菌・抗ウイルス加工製品は安全性試験をクリアしていますが、それにもかかわらず消費者の中には安全性への疑問が一定数見られることから、この点については今後さらに情報発信を強化していくことが求められると考えます。



調査 7

SIAAマーク製品の 購買意欲

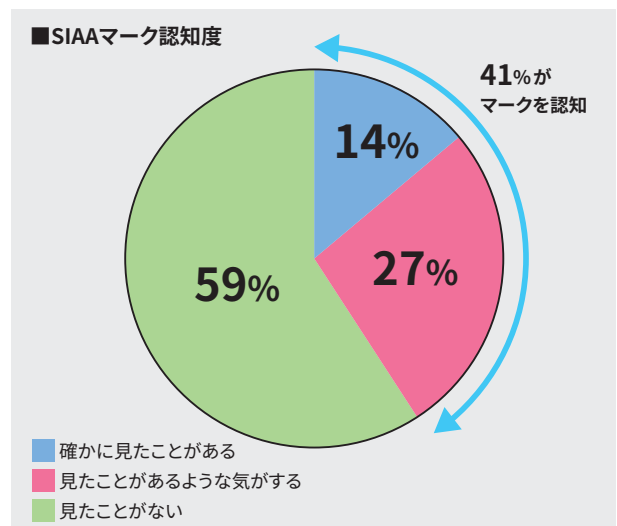
調査対象者にSIAAマークの意味を伝えた後に「マーク製品を選んで買いたいと思うか」を尋ねた結果がこちらの図です。全回答者の59%が「購買意欲あり」と答えています。また、「(マーク無し製品に比べて)価格が高くても買いたい」と答えた人は9.7%に留まっています。価格転嫁について受容してもらえる層は未だ限定的であると見られます。課題として、消費者に対してSIAAマークの価値訴求を徹底し、その信頼性を向上していく必要があると考えられます。



調査 5

SIAAマークを 見たことがあるか

「SIAAマークを見たことがあるか」との質問(三択)に対して「確かに見たことがある=14%」「見たことがあるような気がする=27%」との回答があり、これらの合計41%がSIAAマークを認知していると判断されました。また、これに対して「見たことがない」は59%と多数を占めています。調査1で見たように「衛生意識のある人」は66%あり、「衛生意識はあるがSIAAマークは知らない」という消費者が一定数いることがわかります。SIAAマークの認知度向上は今後も課題となっていきます。



Information board

SIAA事務局からのお知らせ、SIAAマーク普及促進のための情報などを発信していきます。

第52回 国際福祉機器展

H.C.R.2024 に出展しました

2024年 10月2日(水)～4日(金)

「国際福祉機器展H.C.R.2024」(東京ビッグサイト)に今年もSIAAが出展しました。同イベントはハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボットまで、世界の福祉機器が一堂に集うアジアで最大規模の国際展示会です。

今年は天候にも恵まれ3日間で12万もの来場者を記録。400社にのぼる出展社のブースでは新たな製品・技術が紹介され、来場者は「見て」「触って」「確かめる」ことで福祉機器の進化を確認していました。

SIAAマークを通じて「安心・安全・快適」な介護・福祉機器の拡大・普及を目指すSIAAにとってもH.C.R.は重要なプロモーションの場。今年は抗菌・抗ウイルス・防カビに加え、抗バイオフィームについての訴求も行い、福祉業界はもちろん大勢の一般来場者(消費者)の皆様にもSIAAマークをアピールする機会となりました。



台湾最大のプラスチック・ゴム産業の国際見本市

『TaipeiPLAS 2024』に出展しました

2024年 9月24日(火)～28日(土)

SIAAでは海外戦略の一環として「台北国際プラスチック・ゴム産業見本市『TaipeiPLAS 2024』」に出展しました。TaipeiPLASは台湾で最大のプラスチック・ゴム業界の国際イベント。会場となった台北市の南港展覽館には今年も1800のブースに約500社もの出展者が参加。最新の製品、技術、環境に優しい代替材料などを紹介し、国内外の様々な分野から2万人以上の来場者が訪れました。

SIAAブースではSIAA認証マークや「安心・安全・快適」な衛生加工製品、さらには7月から認証制度がスタートした抗バイオフィームについても紹介し盛況となりました。現在SIAAでは国際展開委員会、SIAA台湾支部を中心に、台湾におけるSIAA認証マークの普及活動とSIAA台湾会員企業のサポートを行っています。



抗バイオフィームパンフレットをご活用ください

eBookはウェブより閲覧できます

抗バイオフィームSIAAマークの認証制度スタートにともない、新たなパンフレット「今知っておきたい抗バイオフィームとSIAAマーク」を作成しました。バイオフィームが形成されるプロセスからバイオフィームがもたらすリスク、新しいSIAAマークの紹介まで、消費者の皆様にもわかりやすく解説。今後本格的に開発・普及が進む抗バイオフィーム加工製品について消費者理解を深めるためのツールとしてお役にください。パンフレットはハンドブック仕様。ダウンロード版/eBook版はホームページよりご利用ください。



■ ご意見やご要望をお寄せください

会報誌「暮らしの中のSIAA」では、今後の誌面作りの参考にさせていただくため、皆様のご意見を募集しています。スマホの場合は右のQRコードから、PCの場合はホームページ内「会報誌へのご意見」から入力フォームにそれぞれアクセスできます。ご協力お願い申し上げます。

■ ホームページ 会報誌へのご意見 https://www.kohkin.net/siaa/members_page.html

■ 会報誌に関するお問い合わせ：SIAA事務局 info@kohkin.net



SIAA
ISO 22196
抗菌加工

当誌は抗菌加工されています
(表紙・裏表紙)